

令和3年度

教育方針

～「丹波篠山の教育」説明原稿～

令和3年2月16日

丹波篠山市教育委員会

第121回丹波篠山市議会2月16日会議において、令和3年度の教育予算を提案するに際し、教育行政に取り組む所信を示し、議員の皆様をはじめ、市民の皆様のご理解とご支援を賜りたいと存じます。

それでは、配付しています「丹波篠山の教育」を基にして、第3期丹波篠山市教育振興基本計画5つの基本方向から教育施策を説明いたします。

3 ページ

施策の基本方向1 子どもの根っこを育てる乳幼児教育の推進

1-1 “子育ていちばん”に向けて

「朝日とともに目覚め、四季を感じながら、夢中になって遊ぶささやまっ子」の育成をめざし、乳幼児期における体験活動を通じて豊かな感性を育み健全育成を図っていきます。

次に、子育て家庭のニーズに応えるため、篠山幼稚園児、たまみず幼稚園児及び岡野幼稚園児を対象にした預かり保育施設“こどものおしろ”を4月から開設します。また、待機児童対策のため、園の保育室増設などを検討します。

4 ページ 1-2 子どもの根っこを育てる環境づくり

子どもたちが夢をもって健全に育つよう、「眠育、食育、あそび」を総合的に推進する「ふた葉プロジェクト」を展開し、家庭と連携した子育て環境の確立に継続して取り組み、基本的な生活習慣づくり、自立心の育成、心身の調和のとれた発達をめざします。

「篠山発子育て日めくり応援メッセージ」や新たに作成した「丹波篠山市幼児教育コンセプトブック」、自然遊びを紹介した情報共通ツール「はる・なつ・あき・ふゆ あそぶっく」を活用します。

6 ページ 1-3 乳幼児教育の充実

乳幼児期の子どもたちが、心豊かにたくましく生きる力を身につけるため、

この丹波篠山の自然を最大限に活かしながら、体幹づくりや粘土遊び、水遊び、砂遊び、泥遊びなど諸感覚を鍛えるよう組みます。また、私立こども園とも連携し、職員同士が学び合う風土をつくり、職員の資質向上に取り組みます。

7 ページ 1-4 子ども・子育て支援の体制づくり

保護者が子育てについての責任を果たせるよう、地域社会が保護者に寄り添い、子どもの成長、親自身の成長に対し、喜びや生きがいを感じる体制づくりを進めます。また、子どもが幸せに育つには、保護者が幸せであることが何より大切であるため、保護者の心理的負担を軽減し、子育ての楽しさが実感できるまちづくりを進めます。

そのため、「子育て相談の充実」、「病児保育の実施」、「児童クラブの充実」、「預かり保育の充実」を実施します。

8 ページ

施策の基本方向2 生きる力を培い創造性を伸ばす教育の推進

2-1 確かな学力の確立

グローバル化の進展に、ICT・AI等の情報技術の急速な進展が加わり、変化の激しい予測困難な時代にあって、子どもたちが自立して活動していくために、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得、それらを活用して課題解決を図る思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学びに向かう力・人間性等を身につける取組を進めます。

まず、生活実態や学力状況を適切に把握するため「全国学力・学習状況調査」に加えて「丹波篠山市学力・生活習慣状況調査」を継続して実施します。そして、この調査結果を基に、学力向上プロジェクト事業、主体的な学習習慣の育成、読書活動の充実、外国語教育の充実等に取り組みます。

さらに、指定研究事業に取り組み、主体的・対話的で深い学びとなる授業研究を進めます。

また、令和2年度に、小中学校に一人一台パソコンの学習環境を整備しました。児童生徒が情報及び情報手段を主体的に選択し、活用していく力を育むため、プログラミング教育を推進し、発達段階に応じた情報活用能力を育成していきます。また、学習プリント配信システムの活用を進め、児童生徒の主体的な学習を支援していきます。

次に、外国語教育の充実についてです。外国語指導助手（ALT）や小学校外国語活動指導補助員（JTE）とのふれあいや対話を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成します。小学3・4年生では、英語によるコミュニケーションを図る素地づくりを行い、5・6年生の教科となった「外国語」では、「読むこと」「書くこと」を加えた言語活動を通じて、子どもたちのコミュニケーション能力の向上を図っていきます。

13ページ 2-2 豊かな心の育成

道徳教育、人権教育、ふるさと教育等の充実を図り、人間形成の基盤となる豊かな情操と道徳性を培い、子どもたちが主体的に判断し、適切に行動する力を育成していきます。

今日的な課題であるインターネット上の人権侵害、新型コロナウイルス感染症にかかる人権侵害なども含め、考える機会を設け、児童生徒の人権意識を高めていきます。

また、デジタル社会においても、よりよく生きることができる人材を育てるため「デジタル・シティズンシップ教育」という表現になりますが、児童生徒が、オンラインやICTの利活用時に生じるリスクを理解し、安全に利用する能力を身につけるよう取り組みます。

一方リアルな体験も重要ですので、地域における「環境体験事業」では命の大切さを学び、「トライやる・ウィーク」では生きる力を身につけるとともに、地域の様々な活動への理解を深めていきます。

18ページ 2-3 健やかな体の育成

生活環境が急激に変化する社会において、子どもたちが生涯を通じて活力をもって活動していくためには、スポーツに親しみ、継続的に運動ができる資質・能力の育成を図り、健康で安全な生活を送るための基礎を培い、心身の調和的発達を図っていくことが大切です。

そのため、「体力・運動能力調査」を通して、運動能力の向上と体力づくりへの関心を高め、生涯にわたりスポーツを楽しもうとする意欲の向上を図ります。また、健全な体を保つため、栄養教諭が中心となって、家庭や地域と連携しながら「食育」を進めるとともに、学校薬剤師等と連携し、「喫煙・飲酒・薬物乱用防止」の教育を行います。

「部活動の充実」では、令和3年度から各中学校に、教職員との連携や練習調整など部活動を総括的に担当する「部活動推進員」を新規に配置します。また、「部活動指導員」「部活動支援員」も継続して配置することにより、指導体制の充実と教職員の負担軽減を図ります。

20ページ 2-4 社会的自立に向けたキャリア形成の支援

子どもたちが、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するために、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力を育成します。キャリア形成支援事業「夢プラン」は、進路を考え始める市内中学2年生と保護者を対象に「生き方」を考える機会として実施している事業です。市内3高等学校の学校紹介を通じて、中学校卒業後の進路について考えるとともに、地元で活躍されている方からも話を聞き、主体的に進路を選択する能力や態度を育成していきます。

また、小学校6年間と中学校3年間、この9年間の子どもの育ちと学びに連続性を持たせるため、「小中連携心のサポート事業」として、校種間のつながりを考慮した授業研究を推進します。また、児童が中学校へスムーズに移行できるよう、オープンスクールへの相互参加や児童生徒の交流を推進するとともに、いじめや問題行動、不登校対策等について小中学校が連携し組

織的な対応を進めていきます。

22ページ 2-5 特別支援教育の充実

すべての学校園や学級に、発達障害を含めた障がいのある子どもたち等が在籍することを前提に、一人一人の教育的ニーズを把握し、自立と社会参加を見据えたキャリア形成に向け、きめ細かく適切な教育的支援を行います。

篠山養護学校を特別支援教育のセンター的な役割を担う学校として位置づけ、教職員の専門性を高めます。また、篠山養護学校内に設置した早期発達支援室では、発達障害及び知的障害のある幼児に対し、適切な早期支援を行い、個々の成長発達及び円滑な就学期への移行を促します。さらに効果的な支援を推進するため、教育支援委員会、発達障害児等支援連絡会議及び児童発達支援センター等と適切な連携を図っていきます。

また、一人一人に応じた教育支援を行うため、個別の教育支援計画（サポートファイル）を保護者とともに作成し、このファイルを保幼小、小中、中高の学校園間で確実に引き継ぎ、情報を共有して、一貫した指導・支援を行います。

25ページ

施策の基本方向3 子どもの学びを支える環境づくりの推進

3-1 安全安心で質の高い学習環境の整備

子どもたちが安心して学校生活を送るためには、安全で質の高い学習環境の整備が重要です。令和3年度には篠山東中学校の大規模改修を行うとともに、今田小学校と多紀小学校のスクールバス各1台を更新します。また、熱中症対策を目的に、遠距離を徒歩通学する児童を対象に、夏季期間中の下校時に臨時スクールバスを運行します。また、ICTの効果的な活用を進めるため、研究校を指定して、学習用デジタル教科書を導入します。

自然災害や交通事故、犯罪などから子どもたちを守る安全安心な学校園づくりのため、家庭・地域・関係機関と連携しながら安全教育を継続的・計画

的に実施し、訓練を通して実践力を向上させます。

28ページ 3-2 地域とともにある学校づくり

子どもたちの豊かな学びを実現するためには、教育の原点である家庭の教育力や子どもを見守り支える地域の教育力を高めることが重要です。

地域住民や保護者などで構成された「学校運営協議会」では、学校運営方針の承認をはじめ、連携事業の企画・運営などの取組が行われています。学校運営協議会が主体となって進めるコミュニティ・スクールは、地域の特色ある資源を活用していきます。

「放課後子ども教室」は、放課後や休日に小学校などの施設を活用し、地域住民の参画を得て、遊びやスポーツを通して地域で子どもを育む事業です。令和3年度は岡野、城東、西紀、味間の4小学校区で取り組みます。

子どもの居場所づくりを推進するため、引き続き「通学合宿」や「トライしよう DAY」に取り組み、地域住民との関わりから、子どもたちのコミュニケーション能力、豊かな人間性や社会性を育むとともに、地域の教育力の向上もめざします。

30ページ 3-3 家庭の教育力の向上

家庭、学校、地域が一体となり、次世代を担う子どもたちの健全育成を共に考える機会や、安心して子育てができる環境づくりに向けた情報交換・仲間づくりの機会を提供します。

青少年協議会、PTA協議会、子ども会連絡協議会等の活動支援を通じて、地域ぐるみで子どもたちを育てることの大切さを再認識し、思いやりと郷土愛を持った子どもの育成をめざします。

また、子育てをする親が必要な知識を学び、ともに助け合い、仲間づくりができるよう、親子の絆プログラム「赤ちゃんがきた！」と「きょうだいが生まれた！」の講座を開催します。この講座は、転入直後や市内に知り合いがいない親にとって出会いの場となっています。

31ページ 3-4 教職員の資質能力の向上

教職員は、絶えず学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質・能力を高めていくことが必要です。それは、変化の激しい社会を生き抜く子どもたちを育成するためには、教職員自身が時代や社会、環境の変化を的確につかみとり、その時々状況に応じた適切な学びを提供していくことが求められるからです。そのため、学校評価を活用し、学校運営改善を継続して行っています。

いじめの防止等に向かった的確に対応するため、学校、家庭、地域が一体となって、未然防止・早期発見・早期対応に取り組めます。子どもたちの小さな変化を敏感に察知し、いじめ認知能力を向上させるとともに、学期に1回以上のアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めます。

また、児童生徒や保護者、教職員等を支える「心の専門家」であるスクールカウンセラーや「福祉の専門家」であるスクールソーシャルワーカーの配置を充実します。

丹波篠山市教育研究所においては、教育関係職員の成長と子どもたちの育成のため調査・研究、並びに研修を推進します。

35ページ 3-5 保幼小中高大の連携

保育園、幼稚園、こども園から小学校、小学校から中学校、中学校から高等学校や大学などの上級学校への移行には連続性が必要であり、キャリア教育上の連携が大切です。学びと育ちの連続性を重視し、教職員等による情報交換を行うなど連携を強化し、発達段階に応じたキャリア形成を支援します。

36ページ

施策の基本方向4 人生100年時代を豊かに生きる学びの推進

4-1 主体的に生きるための学びと場の充実

「人生100年時代」では、すべての人が自らの人生を設計し、学び続け、学んだことをいかして活動できる社会の形成が求められます。市民一人一人

が生涯を通じて生きがいを持ち、様々な学びの機会を得ることや、社会の一員として必要な学びに取り組み、自らが暮らす地域の課題を協働して解決していくことがより大切であることから、ライフステージに応じた学習機会の創出に努めます。

図書館は、「図書館ビジョン」に基づき、あらゆる世代に応じた図書館事業を推進しています。令和3年度は、令和4年度からの10年を見据えた新たな「図書館ビジョン」の策定に取り組みます。

また、市民センター図書コーナーの運営は、令和2年度までボランティアの方にお世話になってきましたが、令和3年度からは中央図書館と同等の図書館サービスを提供するため、職員を配置します。

また、丹波篠山市史編さん事業では、令和10年度刊行を目途に、計画的な編さん作業を進めます。そのため、神戸大学等と連携し、歴史資料を収集・調査・保存整理し、市史編さんに活用するとともに、地域資料として保存・活用を図ります。

また、さまざまな学びの機会を提供するため、「障がい者社会学級の運営支援」「外国人住民の学習支援」「高齢者大学の充実」等を行います。

4 1 ページ 4-2 スポーツの推進

スポーツを通じて楽しさや感動を分かち合い、一人一人が健康で、いきいきと暮らす社会の実現に向け、スポーツ団体と連携・協働したスポーツ環境の整備・充実に取り組みます。

市民にスポーツ活動の機会を提供するため、スポーツ協会、スポーツクラブ21及び各種スポーツ団体への支援を行います。令和元年度・2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止となりましたが、令和3年度は42回目となる「丹波篠山ABCマラソン」を開催します。

また、「東京2020オリンピック・パラリンピック」の開催を契機に、トップアスリートとふれあう機会の創出など、市民のスポーツ活動に対する機運を高めます。5月24日夜には聖火リレーが行われ、ゴール地の篠山城

跡の三の丸広場ではセレブレーションイベントを実施します。また、オリンピック、パラリンピックのホストタウン市として、食、文化、スポーツ等の交流を通して地域の活性化に取り組みます。

4 3 ページ 4-3 文化財と町並みの保存と活用

歴史文化を活かしたまちづくりをさらに推進するため、活性化の核となる国指定史跡の整備と町並み保存と活用事業を連動させ、地域住民主体の取組を継続して推進します。

まず、令和2年度に策定した「文化財保存活用地域計画」を国へ認定申請し、「歴史文化まちづくり資産」の総合的な保存・活用のスタートとします。

また、史跡篠山城跡は「篠山城跡整備基本計画」に基づき二の丸南面の高石垣の修理を進めていきます。史跡八上城跡は、整備基本計画を策定し、整備に向けての準備を地域住民と進めます。

重要伝統的建造物群保存地区である篠山地区と福住地区では、令和3年度も計8件の保存修理を行い、歴史的風致の向上を地区住民と連携しながら進めます。

4 4 ページ 4-4 文化・芸術の振興

篠山城大書院、歴史美術館、青山歴史村、武家屋敷安間家史料館の歴史文化施設4館や田園交響ホールの特徴を生かし、丹波篠山市の歴史文化・芸術の発信拠点としていきます。

歴史文化施設4館においては、指定管理による効率的な管理・運営を実施するとともに、特別展等を行い、市民へのPRと来館を促進します。

17回目となる丹波篠山市展では、市内外からの優れた作品を展示することで、市民の創作活動への意欲づけ、鑑賞機会の提供とし、芸術文化の振興を図ります。

田園交響ホールでは、市民が希望する公演や質の高い舞台芸術に触れる機会の創出も考えながら、子どもから大人まで誰もが楽しめる魅力ある公演を

実施していきます。令和3年度の主催事業は、佐渡裕プロデュースオペラ“メリー・ウィドウ”ハイライトコンサート、古澤巖ヴァイオリンコンサート、桂文珍ふるさと独演会、瀧川鯉昇（りしょう）・鯉斗（こいと）落語競演会、狂言 野村万作・萬斎の世界、など9公演を開催するほか、市民自らが企画する市民企画事業を1本と市民ミュージカル第10弾を行います。

また、チケット購入時のキャッシュレス化への対応を進め、利便性の向上を図ることやロビー周辺に導入されたフリーWi-Fiを活用したロビーのオープンスペース化なども検討していきます。

47ページ 4-5 自然遺産に学ぶ教育の充実

地域を担う人材の育成には、「地域を知る」ことが欠かせません。市内に数多く点在する地域資源を教材として活用し、学校教育・社会教育の連携を積極的に行い、学習機会の提供・充実を図ります。

体験学習の拠点、調査研究施設としての「太古の生きもの館」では、「丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム構想」に基づき、丹波市や人と自然の博物館と連携して、化石発掘体験イベントや市内全小学校を対象とした校外学習プログラムを実施します。また、宮田の重点保護区域も小中学生の体験学習の場としての活用を推進します。このような事業展開を通して、化石発掘などの次世代市民ボランティアの育成に繋がるよう取り組みます。

48ページ

施策の基本方向5 郷土を愛し誇りに思う人材育成の推進

5-1 ふるさと丹波篠山を愛する心の育成

歴史的・文化的な共同体としての郷土を心から大切に思い、郷土の発展を願い、それに寄与する姿勢を身に付けるよう取り組みます。

学校教育では、副読本である「わたしたちの丹波篠山市」「丹波篠山ふるさとガイドブック」を活用し、校区の名所旧跡、自然、産業などにふれ、ふるさとへの誇りと愛着心を育みます。また、ボランティア活動や、連を組ん

でデカンショ祭に参加するなど、地域の行事に参加することを通じて「地域とともにある学校づくり」を推進します。

公民館事業で、伝統文化の魅力を紹介する「丹波ささやま市民文化講座」、魅力を再発見する「丹波ささやまおもしろゼミナール」、古文書に親しみながら歴史を学ぶ「古文書入門講座」は、名称を「古文書講座」と改め、新たに古文書講座中級編を開講して地域の古文書を活かす人材を育みます。

また、郷土味学講座は、平成28年度に作成した郷土料理レシピ集「よろしゅうおあがり」、そして令和2年度に作成した「よろしゅうおあがりⅡ」を活用し、郷土料理の普及・啓発を進めていきます。

5 1 ページ 5-2 学校給食の充実と食育の推進

学校給食での献立の充実を図り、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけるため、生きた教材である学校給食を活用した食育推進を継続的に取り組みます。

丹波篠山産コシヒカリ、地元食材を活用した学校給食を充実させるため、主食となる米飯や米粉には、丹波篠山産コシヒカリを100%使用します。また、地元野菜の安定的な使用及び地元食材の活用率向上を図ります。地元特産を取り入れた「篠山まるごと丼」や「ぼたん汁」といったふるさと献立を取り入れるほか、丹波篠山茶週間では、毎日一品、丹波篠山茶を使用した献立を提供します。

全国学校給食甲子園での献立部門2年連続入賞により、農都・丹波篠山を全国にアピールすることができ、学校給食関係者はもとより市民にも大きな誇りになりました。これからも、日本一の給食献立を維持できるよう、関係機関、団体と協力して取り組みます。また、入賞した食育授業のプレゼン発表を参考にして、学校園等で地元食材の豊富さと栄養バランスを織り交ぜた食育授業を実施します。

5 3 ページ

市民に開かれた教育行政をめざして

いま私たちの世界は、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックという深刻な危機に直面していますが、まもなく接種が始まる「ワクチン」や特效薬の開発に期待を寄せているところです。

さて、このコロナ危機において学校は3ヶ月間の休校、再開後も体験を通して学ぶ学校行事も精選してきました、それは、社会教育においても同様でした。そうした、自粛を求められた生活ではありましたが、他者のために生きることが、自分のために生きることにもつながること、競争よりも協力を重きを置くことが大切であり、家族、地域社会、国、そして、人類の利益につながる行動の選択がいかに重要かを、また、難しいかも学びました。

昨年4月開所した教育研究所は、教育を4つの視点から考える機関です。

1 人間の本性や人間と社会との関係、2 乳幼児期・児童期・青年期といった発達の段階それぞれの時期に解決しておくべき課題や危機、3 「考え」「気持ち」「思考」のメカニズムと生きる力の基礎を伸ばす仕組み、4 人間の発達成長は決して学校教育のみに規定されるわけではないので、家族集団の人間形成機能、子ども集団の人間形成機能、さらには地域文化から、これからの丹波篠山市の教育を考えようとするものです。

先行的な研究成果を取り入れ、本市の実状に見合った教育施策を企画し、展開し、そして点検・評価によりその進捗状況を適切に管理します。また、計画の進捗状況や会議の公開等により、開かれた教育行政を進めます。